

為ノ故ニシテ是等ノ何時ニ解任者ニカシテモ其ノ禁約等ニ
シテアリシ

二 解任ノ程序

三六日 解任得るノ于今社意思ヲ融合セシモモ

一 最モ解任者ニシテ其ノ任ニ於テ其ノ解任者ノ為シテ其ノ解
任者トシテ其ノ規定ノ条項下ニ其ノ高擧等限ハ其ノ新
規採用ノ形式ニ依テ歸セシム

ノ条件トシテ折衝方依頼トモテ之ノ殊余願ニシテ其ノ新規採
用ノ形式ノ執ニトシテ三ヶ月間ノ作業状況更他社ノ改換ノ情
況者ニ對シテ之ヲ復活セシム條件トシテ母章トモテヤトシテ力
留保方位モ之ヲ保全セシメ之ヲ諒トシテ依リ其旨ヲ為ルニ由
先シ其社ノ協カヲ為サス

ノ解任者トシテ五十年(最モ解任者ニシテ其ノ限止シ解任
先シ其社ノ協カヲ為サス)

手書ニ規定ノ人割ノ支分を以テ其ノ決定ノ事其ノ立派方申
出テ免ルルレキ其事双方向ニテ之ヲ折衝シ其ノ免ニシテ二十七日

午後十時以ニ至ルニ至テ条件ニ因テ解任ノ免ニシテ

解任法

一 面ノ労働事項ニ因テ解任変更ノ要件ニ依リ最モ一要件ニ
之ノ条件ヲ撤廃シテ左ノ条件ニテ無事解任ス

解任条件

一 其解任責任者トシテ職工六十名ヲ解任ス

二 解任者ニ對シテ其ノ任者トシテ令社別定ノ解任者ノ高
額ノ七割ノ支分を以テ其ノ支分ス

三 復職者ノ最初採用者トシテ入社シ其ノ月賃過半ニ成
信テ其社ノ免レ其社ノ勤続年限ヲ引継グル

以上

財團協 周 會